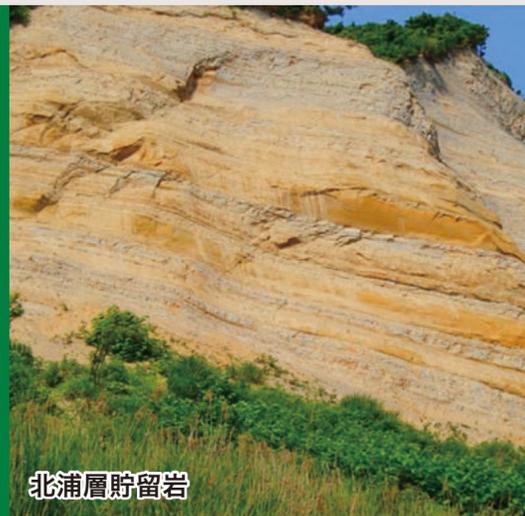


脱炭素と 社会・経済が 調和した トランジションに向けて

エネルギー・環境・資源制約へ対応する 燃料資源地質研究



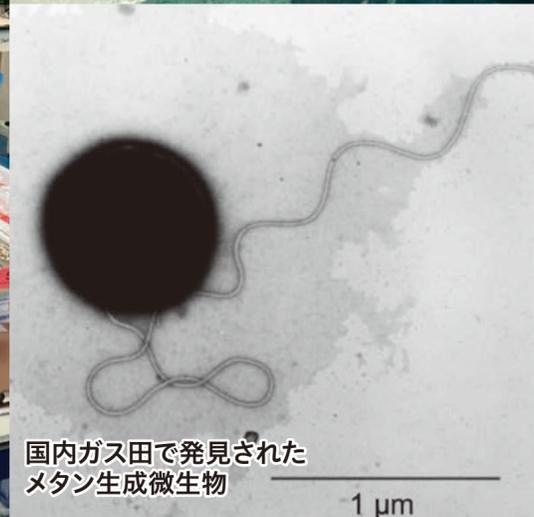
北浦層貯留岩



海底に露出しているメタンハイドレート



ちきゅう船上でのコア観察



国内ガス田で発見された
メタン生成微生物

1 μm

2024年12月6日(金)

13:30～17:30

受付開始 13:00～
参加費無料

秋葉原コンベンションホール秋葉原ダイビル2F

JR秋葉原駅 電気街口 徒歩1分

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、今後も脱炭素化への流れの加速化が予想される一方で、エネルギーの安定供給のための資源確保の重要性は増しており、これまで以上に環境と調和した燃料資源の開発が求められています。

本シンポジウムでは、エネルギー・環境・資源制約への対応に向けた当部門での燃料資源研究の今後の方向性について触れるとともに、招待講演を交え、在来型燃料資源、表層型メタンハイドレート、微生物起源天然ガスに関して、地質学的解釈に基づくこれらの成因やポテンシャル評価等に関わる最新の研究動向を紹介します。

PROGRAM

13:30～13:35	開会の挨拶	副研究部門長 鈴木 正哉
13:35～13:50	地圏資源環境研究部門の概要	研究部門長 相馬 宣和
13:50～14:10	カーボンニュートラル実現のためのCCSの現状とさらなる発展に向けた課題	首席研究員 徂徠 正夫
14:10～14:50	石油・ガス開発とカーボンニュートラルに資する燃料資源地質研究の役割	[招待講演] 石油資源開発株式会社 技術本部 技術研究所 フェロー 高野 修氏
14:50～15:20	各グループの研究トピックス及びポスター紹介	各研究グループ長
15:20～16:10	ポスターセッション	
16:10～16:35	日本海側堆積盆における石油・天然ガス鉱床形成へのテクトニクスの役割	燃料資源地質研究グループ キャリアリサーチャー 中嶋 健
16:35～17:00	日本海の表層型メタンハイドレート： 特徴的な地質学的背景におけるその生成シナリオ	物理探査研究グループ 主任研究員 浅田 美穂
17:00～17:25	国内の新規微生物起源天然ガス田の可能性	燃料資源地質研究グループ グループ長 吉岡 秀佳
17:25～17:30	閉会の挨拶	地質調査総合センター長 中尾 信典

参加申込方法

地圏資源



または <https://unit.aist.go.jp/georesenv/>
へアクセスしてください。



▶申込締切 2024.12.2(月)

ジオスクーリングネット

CPD3.5単位

単位取得を希望される方は事前登録が
必要となります

懇親会

シンポジウム終了後に懇親会の開催を
予定しております